

2025/11/05

【ご挨拶】このホームページ（岩田義道墓前祭参加レポート）を作成した理由について
11月3日は、日本国憲法の公布日です。日本は明治維新（1868年）の後、天皇主権の「大日本帝国憲法」（明治憲法）を制定（1889年）し、「殖産興業」「富国強兵」の政策のもとに産業の近代化（資本主義化）を強力に推進しました。そして、日清・日露戦争を経て、台湾や朝鮮半島を植民地化（韓国併合1910）し、世界的には第一次世界大戦（1914～18）の後、関東大震災（23年）や世界恐慌（29年）により、特に農村の疲弊の下、活路を求めて帝国主義的な中国大陸への侵略（満州事変31年）と満州国の建国（32年）に至る。そして日本は国際連盟を脱退（33年）。この間、国内的には軍部の台頭とともに、軍国主義がはびこり、25年には普通選挙法と同時に治安維持法が制定された。2.26事件（36年）や日華事変（37年）、やがて第二次世界大戦（39年）が始まるとき日本は日独伊3国同盟を締結（40年）。特に米国との開戦とともに始まった太平洋戦争（41年）と、最後には、広島・長崎の原爆投下（45年8月）による大惨劇に終わる第二次世界大戦が終結する。こうした戦前の77年間、戦争に次ぐ戦争の反省の上に創られたのが平和主義と国民主権、基本的人権の尊重を原理とする「日本国憲法」です。

（一連の経過は「わたしと戦争」PDF参照）

そしてこの11月3日は、また、戦前の日本共産党中央委員であり、マルクスの『資本論』を原文で読み、赤旗を拡大して反戦平和を国民的に訴えた岩田義道が治安維持法に基づく特高警察により、拷問の上に虐殺された命日でもあります。私たちは、いま、日本国憲法無視の自民党政治（特に故安倍晋三政権に始まる今日の高市早苗極右政権）による、日本国憲法の上に日米安保条約を据えて米国に隸従し、日米同盟の名の下における軍事的な日米一体化と、無責任な大軍拡路線を盲進する危険な戦前回帰的な激動の政治情勢に直面しています。いまここに、戦前の絶対主義的天皇制支配下における日本共産党员として、反戦平和と植民地解放、基本的人権等を訴えて活躍し、治安維持法により官憲に虐殺された若き岩田義道を偲び、この墓前祭を通して、戦前戦後における反戦平和の活動の歴史の記録として、このホームページを作成する次第です。 2025.11.05 記